

東証スタンダード市場・福証
証券コード：6998

決算補足説明資料

2026年3月期（2025年度） 第2四半期（中間期）決算概要

2025年11月13日



はじめに

当社商品の概要

2026年3月期（2025年度）第2四半期（中間期） 業績概要

1. 今回発表のポイント
2. 連結業績の概要
3. 主な経営指標
4. セグメント別の状況
5. 財務の状況（連結）
6. キャッシュ・フローの状況
7. 剰余金の配当
8. 今後の見通し

参考資料

1. 業績の推移（連結）

当社商品の概要

「粉末冶金技術」を駆使し、タングステン製品を軸に多様な特性を持つ商品を展開

1930年代

1950年代

1970年代

2000年～

粉末冶金技術

多様な特性を持つ商品を展開

タングステンに銅や銀を組み合わせ、**通電性や耐アーク性を備えた合金**を開発

熱に強いタングステンの特徴を用いた**電球フィラメント**が、当社の出発点

電気・電子製品

(タングステン製品)



ブレーカー用電気接点

金属材料製品

(タングステン製品)



電球用タングステンワイヤー製品

タングステンカーバイドとコバルト等を組み合わせ、**耐摩耗性や耐腐食性に優れた合金**を開発

超硬合金製品

(タングステンカーバイド合金)

セラミックス製品

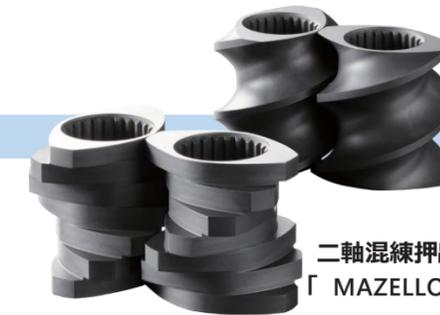
(セラミックス材料)



ハードディスクドライブ(HDD)用
磁気ヘッド基板



NTダイカッター



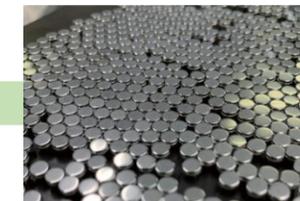
二軸混練押出機用部材
「MAZELLOY®」



抵抗溶接用電極



プラズマ電極



EVリレー用接点



医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品

機械部品事業 (他の商品)

耐摩耐食部品
セラミックス精密加工品
ウルトラファインバブル関連製品

産業用設備向け耐摩耗部材 液晶塗付
用超硬長尺製品 超硬精密加工品

電機部品事業 (他の商品)

放射線遮蔽材料
バルンサー用錘
その他電極製品

コピー機や空気清浄機の放電線
自動車のホーン用接点

暮らしを支える様々な場面で使用される当社の製品

■ 半導体・電子部品市場

サーバーなどのハードディスクドライブの読み取り装置を支える基板や、「産業のコメ」といわれ、電子デバイスの基本材料となる半導体にも、その製造過程で当社の製品が使われています。



■ 自動車部品市場

先端技術を駆使した自動車の部品や、製造工程にも当社の製品が使われています。



■ 衛生用品機器・医療用部品市場



カテーテル用のブレイディングチューブや電気手術用電極など、医療分野でも当社の製品が使われています。



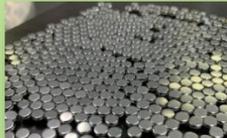
皆様の健やかな生活を支える衛生用品の製造工程でも、当社の製品が使われています。

■ 産業用機器・部品市場

より効率的な生産への改善や、安全面、環境面への管理に対し、信頼性の高い部品が求められています。高品質な材料を活かし、当社の様々な製品がこの分野でも活躍しています。



4つのターゲット市場に、粉末冶金技術を生かした素材・商品群を提供

ターゲット市場	事業セグメント	
	機械部品事業	電機部品事業
衛生用品機器 ・医療用部品市場	 <p>NTダイカッター 国内No.1・世界No.2シェア(当社調べ)</p> <p>新素材を開発</p>	 <p>医療関連カテーテル用 タングステンワイヤー製品</p>
半導体・電子部品市場	 <p>ハードディスクドライブ(HDD) 用磁気ヘッド基板</p> <p>世界 No. 1 シェア(当社調べ)</p>	 <p>プラズマ電極 給電端子部品</p>
自動車部品市場	 <p>二軸混練押出機用部材 「MAZELLOY®」 新商品 (コンパウンド混練機用)</p>	 <p>抵抗溶接用電極 (電装部品溶接用)</p> <p>EVリレー用接点 </p>
産業用機器・部品市場	 <p>産業用設備向け耐摩耗部材 液晶塗付用超硬長尺製品</p>	 <p>ブレーカー用電気接点</p>

2026年3月期（2025年度） 第2四半期（中間期）業績概要

1. 今回発表のポイント

2026年3月期（2025年度）第2四半期（中間期）決算の総括

当第2四半期（中間期）の連結業績は、減収・減益。

経済環境

- 企業の設備投資が堅調であり、雇用・所得環境の改善により個人消費も底堅く推移したこと等から、全体としては緩やかな回復基調で推移。
- 世界経済も底堅く推移しているものの、米中貿易摩擦や地政学リスクの継続等、先行きは依然として不透明な状況が続く。

ターゲット市場の概況

衛生用品機器・医療用部品市場	医療用途が好調に推移したものの、衛生用品機器は前年同期ほどの勢いに欠ける中で推移。
半導体・電子部品市場	データセンター等で使用される大容量ハードディスクドライブ（HDD）の需要に拡大は見られないものの堅調に推移。
自動車部品市場	顧客の生産部材や使用製品仕様の変更の動き等もあり、伸び悩む中で推移。
産業用機器・部品市場	前連結会計年度までの中国向けのまとまった需要が一服したこと等により、大幅な減収。

今後の見通し

経済環境	世界経済は、米国の関税引き上げにより、緩やかな景気減速が想定され、また、国内においても企業収益の下振れが懸念されるものの、人材不足対策やDX化等を背景とした設備投資等の内需の支え等により、景気は回復基調を維持するものと思われる。	
ターゲット市場の動向	衛生用品機器・医療用部品市場	N Tダイカッター（機械部品事業）が、下期にまとまった需要があり、上期業績を上回りながら推移すると見込む。医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品（電機部品事業）が堅調に推移すると見込む。
	半導体・電子部品市場	ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板（機械部品事業）が堅調に推移すると見込む。
	自動車部品市場	電装部品溶接用の抵抗溶接用電極（電機部品事業）は堅調に推移すると見込む。EVリレー用接点は上期と同様に伸び悩む中で推移すると見込む。
	産業用機器・部品市場	二軸混練押出機用の金属部品（機械部品事業）の中国向けのまとまった需要が一服したこと等により、大幅な減少を見込む。

1. 今回発表のポイント

今後の見通し

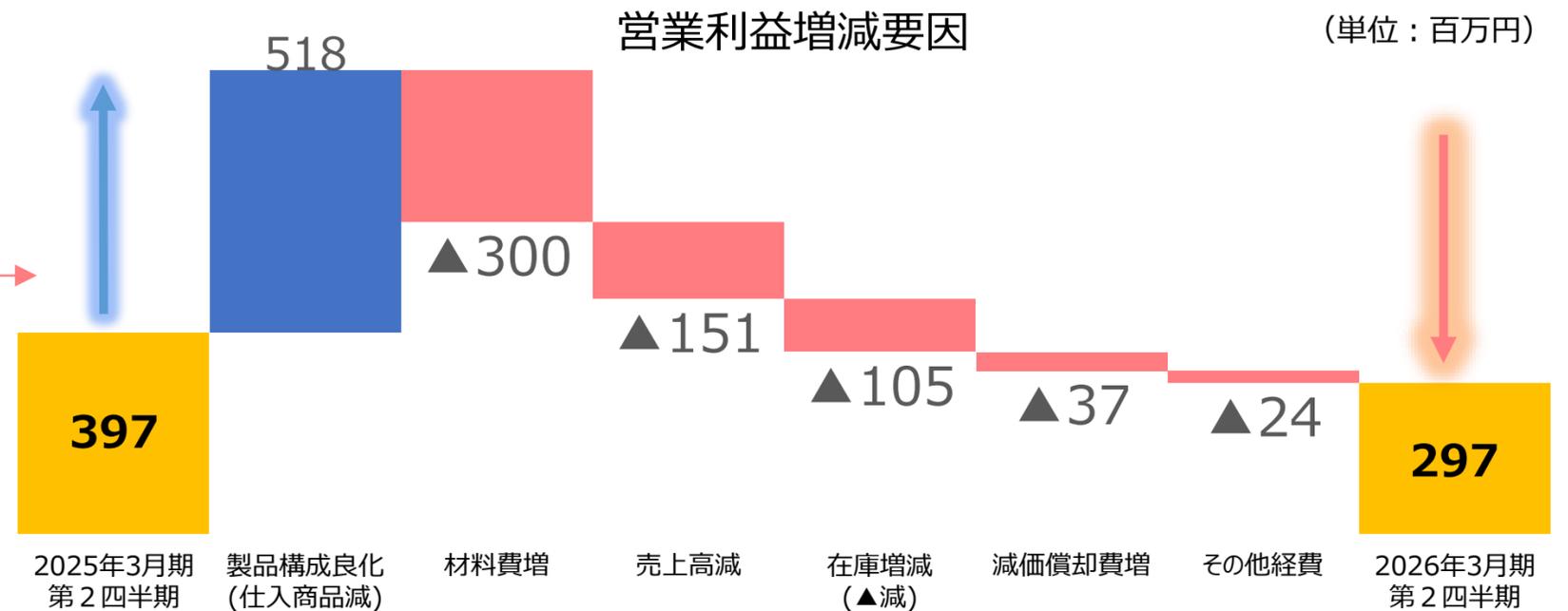
中国輸出規制の影響	<ul style="list-style-type: none">• 主要原材料であるタングステンが、中国からの輸出に時間を要する状況。• 一部で代替品の使用によるコストが増加しているが、一定の在庫は確保しており、継続的な生産に影響を及ぼすことはない。• 安定した調達に向けて、グループ会社との協働による調達や、新たな仕入先の開拓、さらには、リサイクル技術の活用の強化など、継続的な生産に向けた取り組みに注力している。
業績予想について	<ul style="list-style-type: none">• 当第2四半期の業績は、当初想定より若干下振れで進捗しており、また、当連結会計年度下期の業績見通しは、産業用機器・部品市場の低迷を他のターゲット市場でカバーしながら、上期業績と同程度のペースで推移すると見込む。• 2025年5月14日に公表した通期の業績予想から若干乖離する傾向となるが、現時点では、2026年3月期通期の連結及び個別業績予想値は据え置くこととし、今後の受注動向等に注視しながら、業績予想の修正が必要となった場合は速やかに公表する。

剰余金の配当

中間配当と期末配当金予想	<ul style="list-style-type: none">• 1株当たり25円の間配当を実施。• 期末配当金予想（1株当たり25円）は変更しない。
--------------	---

2. 連結業績の概要

	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	2026年3月期 第2四半期 (中間期)	(単位：百万円)	
			増減額	増減率 (%)
売上高	6,309	6,050	△259	△4.1
営業利益	397	297	△99	△25.1
経常利益	523	440	△83	△15.9
親会社株主に帰属する 中間純利益	354	304	△50	△14.2



売上高	60億5千万円 (前年同期比△4.1%減)	<p>機械部品事業の減収の影響が大きく、連結売上高は減収。 (機械部品事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 注力商品であるHDD用磁気ヘッド基板や、製鉄所向けの耐摩耗部材の需要が堅調に推移したものの、二軸混練押出機用の金属部品の中国向けのまとまった需要が一服したことや、NTダイカッターが勢いを欠いたこと等により、大幅な減収。 <p>(電機部品事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 注力商品であるEVリレー用接点が低調だったものの、抵抗溶接用電極や医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品が好調に推移したほか、ブレーカー用電気接点の需要が回復したこと等により増収。
営業利益	2億9千7百万円 (同 △25.1%減)	<ul style="list-style-type: none"> 売上高の減少に加え、一部の原材料調達におけるコスト増加や、生産性向上に向けた設備更新による減価償却費の増加等により、減益。
経常利益	4億4千万円 (同 △15.9%減)	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期の為替差損の計上に対し、当期は為替差益を計上したものの、営業利益の減少等により、減益。
親会社株主に帰属する中間純利益	3億4百万円 (同 14.2%減)	<ul style="list-style-type: none"> 経常利益の減少等により、減益。

3. 主な経営指標

	2022年3月期 第2四半期（中間期）	2023年3月期 第2四半期（中間期）	2024年3月期 第2四半期（中間期）	2025年3月期 第2四半期（中間期）	2026年3月期 第2四半期（中間期）
売上高営業利益率	8.2	9.1	5.1	6.3	↓ 4.9
自己資本中間純利益率（ROE）	4.4	4.8	3.2	3.0	↓ 2.4
総資産経常利益率（ROA）	4.0	4.6	2.7	3.0	↓ 2.5
1株当中間純利益	92.18	107.26	74.71	73.21	↓ 62.69

➤ 各利益が前年同期比で減益となったことにより、経営指標は低下。

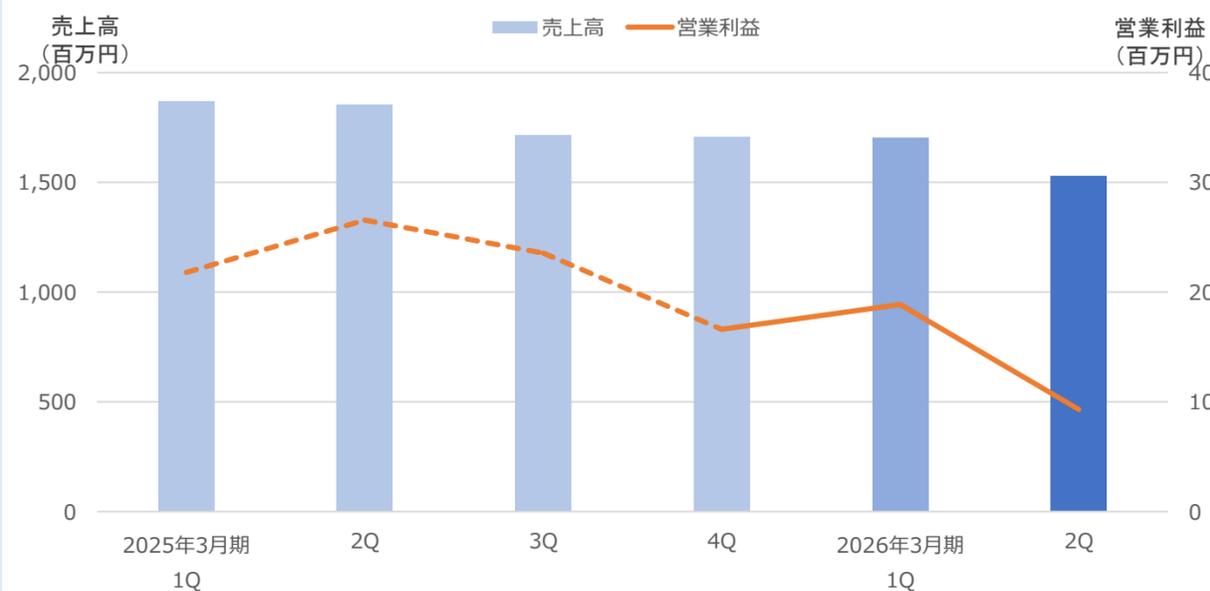
（注）2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2022年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり中間純利益を算定しております。

4. セグメント別の状況

■ セグメント業績の概要

	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	2026年3月期 第2四半期 (中間期)	対前年同期比	
			増減額	増減率 (%)
(単位：百万円)				
機械部品事業				
売上高	3,721	3,232	△489	△13.1
営業利益	483	281	△201	△41.7
電機部品事業				
売上高	2,607	2,828	220	8.4
営業利益	217	304	87	40.3
調整額				
売上高	△19	△9	10	—
営業利益	△303	△289	14	—
全社				
売上高	6,309	6,050	△259	△4.1
営業利益	397	297	△99	△25.1

機械部品事業



	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	2026年3月期 第2四半期 (中間期)
売上構成比	58.8%	53.3%
営業利益率	13.0%	8.7%

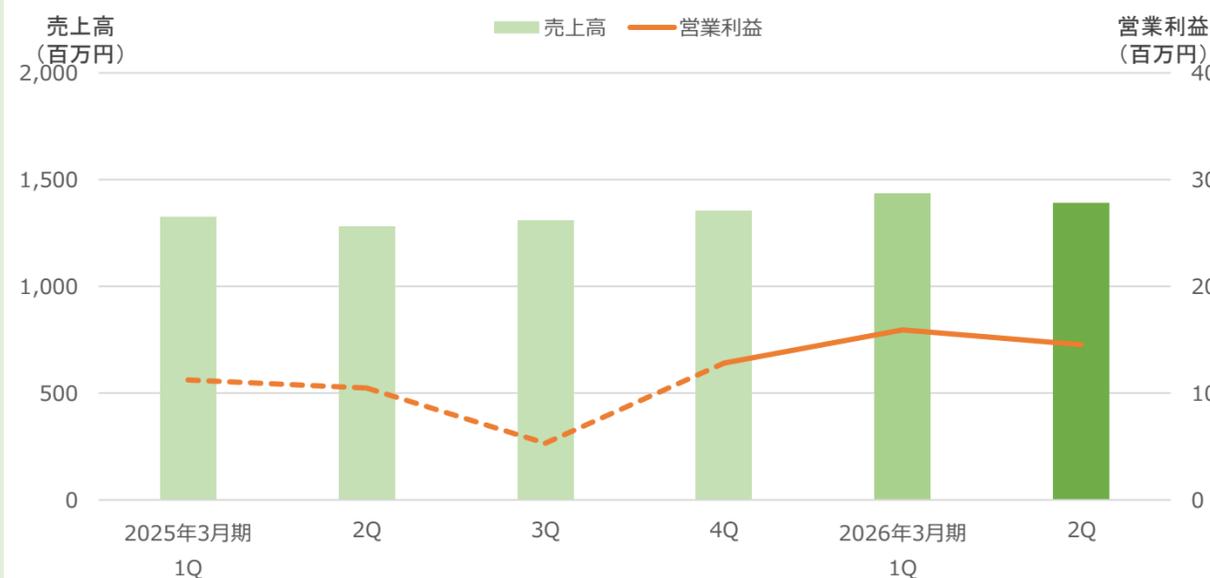
前年同四半期比

- ・売上高は、13.1%の減収
- ・営業利益は、41.7%の減益

四半期推移

- ・売上高及び営業利益率共に下方傾向が続く。

電機部品事業



	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	2026年3月期 第2四半期 (中間期)
売上構成比	41.2%	46.7%
営業利益率	8.3%	10.8%

前年同四半期比

- ・売上高は、8.4%の増収
- ・営業利益は、40.3%の増益

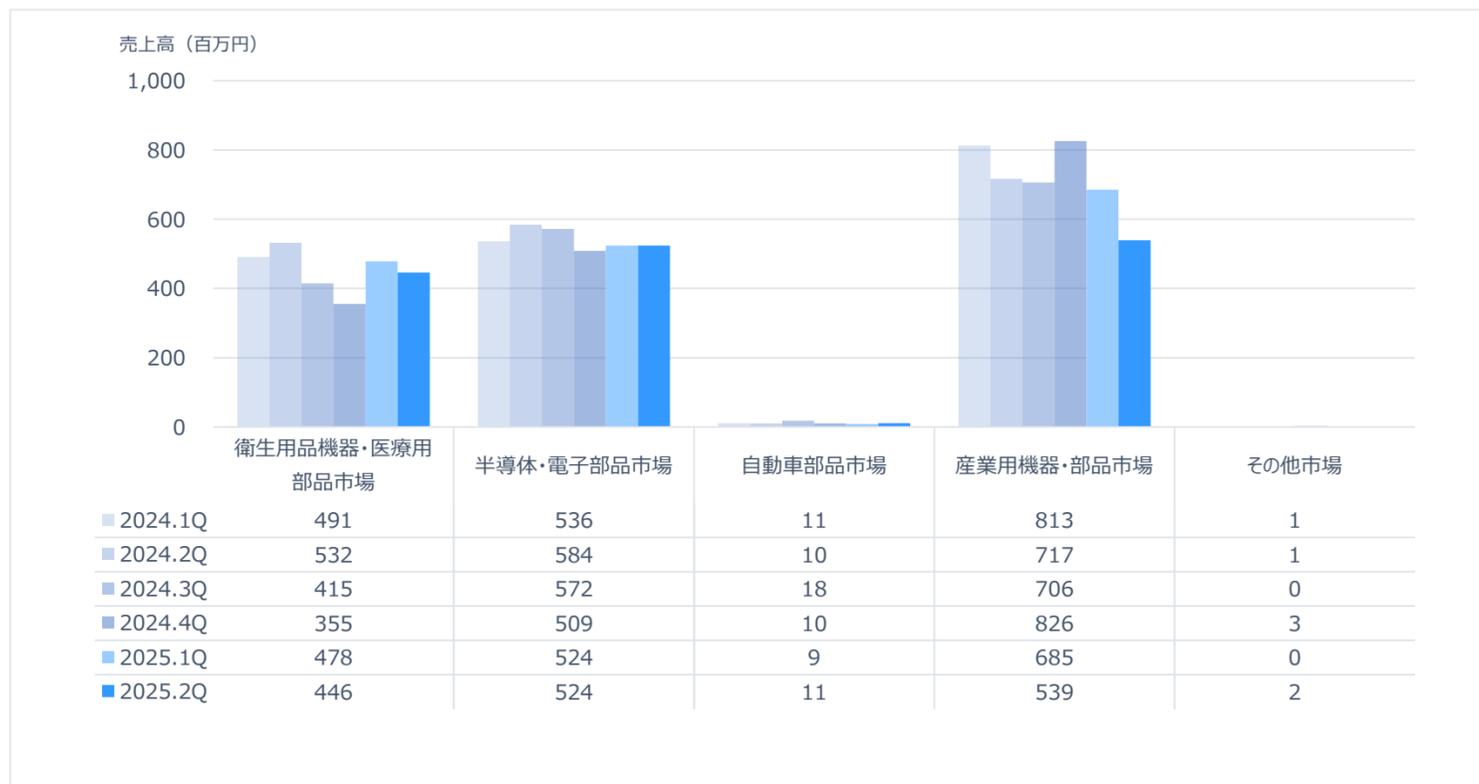
四半期推移

- ・売上高・営業利益共に前連結会計年度下期から回復傾向であったが2Qでやや減速。

機械部品事業は対前年同期比で減収減益
電機部品事業は対前年同期比で増収増益

4. セグメント別の状況

■ ターゲット市場別業績・主要商品の状況



NTダイカッター



HDD用
磁気ヘッド基板



二軸混練押出
機用の金属部品

製鉄所向けの耐摩
耗部材

ターゲット市場の主要な商品の状況 (前年同期比)

■ 衛生用品機器・医療用部品市場

NTダイカッター

新構造ユニットの拡販等により新たな顧客の獲得等があったものの、前年同期に好調だったヨーロッパ向けの販売の反動減や、米国での販売が振るわず、減収。

■ 半導体・電子部品市場

情報関連機器のハードディスクドライブ (HDD) 用磁気ヘッド基板

データセンター等で使用される大容量HDDの需要が堅調に推移しており、増収。

電子機器製造用の金型製品

顧客の需要が低調に推移したこと等により、減収。

■ 産業用機器・部品市場

製鉄所向けの耐摩耗部材

競合品と比べ耐久性の面で評価を得ており、増収。

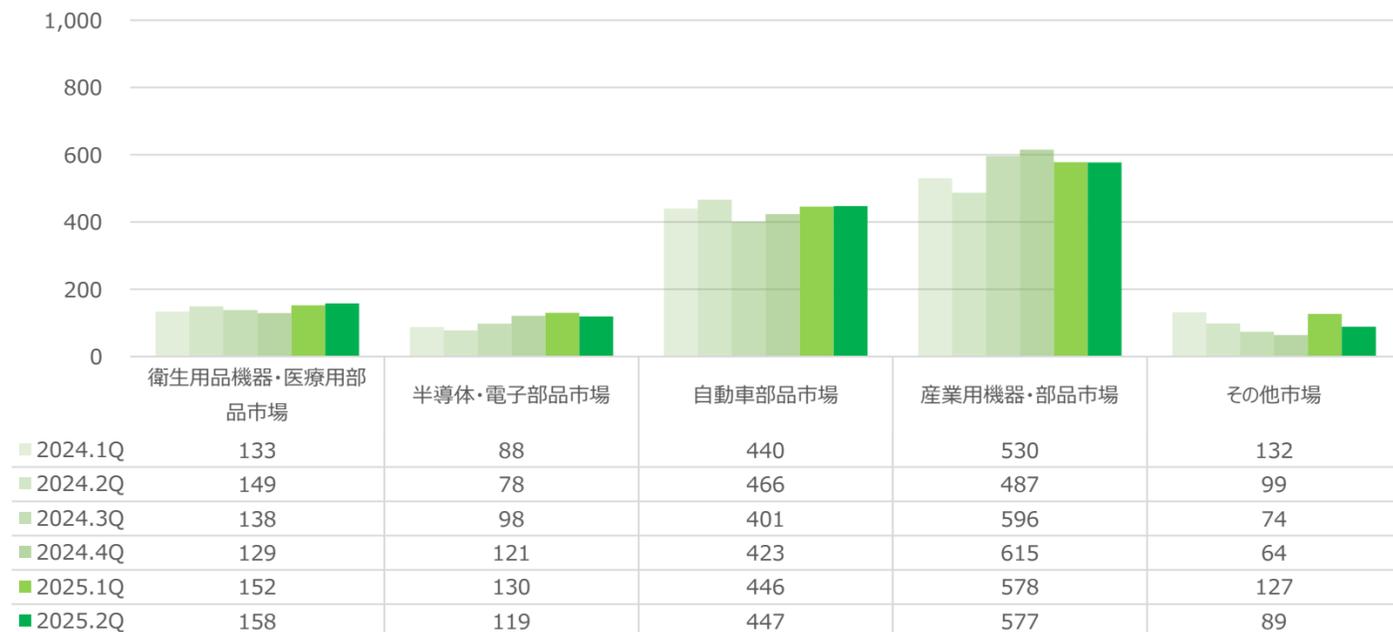
二軸混練押出機用の金属部品

顧客での評価が進んでいるものの、前連結会計年度までの中国向けのまとまった需要が一服したこと等により、大幅な減収。

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

4. セグメント別の状況

売上高 (百万円)



医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品

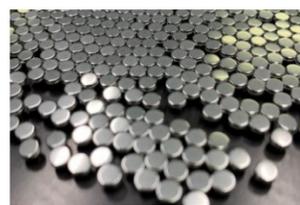
半導体製造装置に用いられる給電端子部品



抵抗溶接用電極



ブレーカー用電気接点



EVリレー用接点

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

ターゲット市場の主要な商品の状況 (前年同期比)

■ 衛生用品機器・医療用部品市場

医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品

北米地域向けでは需要増に加え、価格改定の効果もあり増収。また、他の地域においても需要が高まってきており、増収。

■ 半導体・電子部品市場

半導体製造装置に用いられる給電端子部品

半導体製造装置の設備投資需要の増加に伴い、増収。

■ 自動車部品市場

電装部品溶接用の抵抗溶接用電極

自動車市場顧客の電極需要が増加し、増収。

EVリレー用接点

米国市場の需要低迷や、顧客の他材種への仕様変更の影響等により、減収。

■ 産業用機器・部品市場

産業用設備向けのブレーカー用電気接点

前期の在庫調整から回復したことや原材料価格の上昇に伴う価格改定の効果もあり、増収。

5. 財務の状況（連結）

	(単位：百万円)		
	2025年3月期	2026年3月期 第2四半期（中間期）	対前年比 増減額
総資産	17,633	18,000	366
負債	5,070	5,160	90
純資産	12,563	12,839	275

主な経営指標

	2025年3月期	2026年3月期 第2四半期（中間期）
自己資本比率（%）	71.2	71.3
1株当たり純資産（円）	2,588.46	2,641.38

	主な増加要因 (単位:百万円)	主な減少要因 (単位:百万円)
総資産 180億円 (前連結会計年度末比3億6千6百万円増)	現金及び預金 +494	—
負債 51億6千万円 (同9千万円増)	契約負債 +132	設備関係未払金 △80
純資産 128億3千9百万円 (同2億7千5百万円増)	利益剰余金 +183 その他有価証券評価差額金 +101	—

6. キャッシュ・フローの状況

	(単位：百万円)		
	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	2026年3月期 第2四半期 (中間期)	対前年同期比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	555	849	294 (収入増)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△367	△239	127 (支出減)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△130	△132	△1 (支出増)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17	12	30
現金及び現金同等物の期末残高	3,518	3,780	262

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により獲得した資金 8億4千9百万円 (前年同期比 2億9千4百万円の収入増)
 ▶主に売上債権が前年同期は増加したのに対し、当期は減少したことによる

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により支出した資金 2億3千9百万円 (同 1億2千7百万円の支出減)
 ▶主に有形固定資産の取得による支出が減少したことによる

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により支出した資金 1億3千2百万円 (同 1百万円の支出増)
 ▶主に配当金の支払が増加したことによる

7. 剰余金の配当

剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は株主の皆様への利益還元について、新製品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な企業財務体質の強化等を総合的に勘案しつつ、原則として、年間の1株あたり配当額50円を下限として、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安とした安定的・継続的な配当を実施するよう努めます。

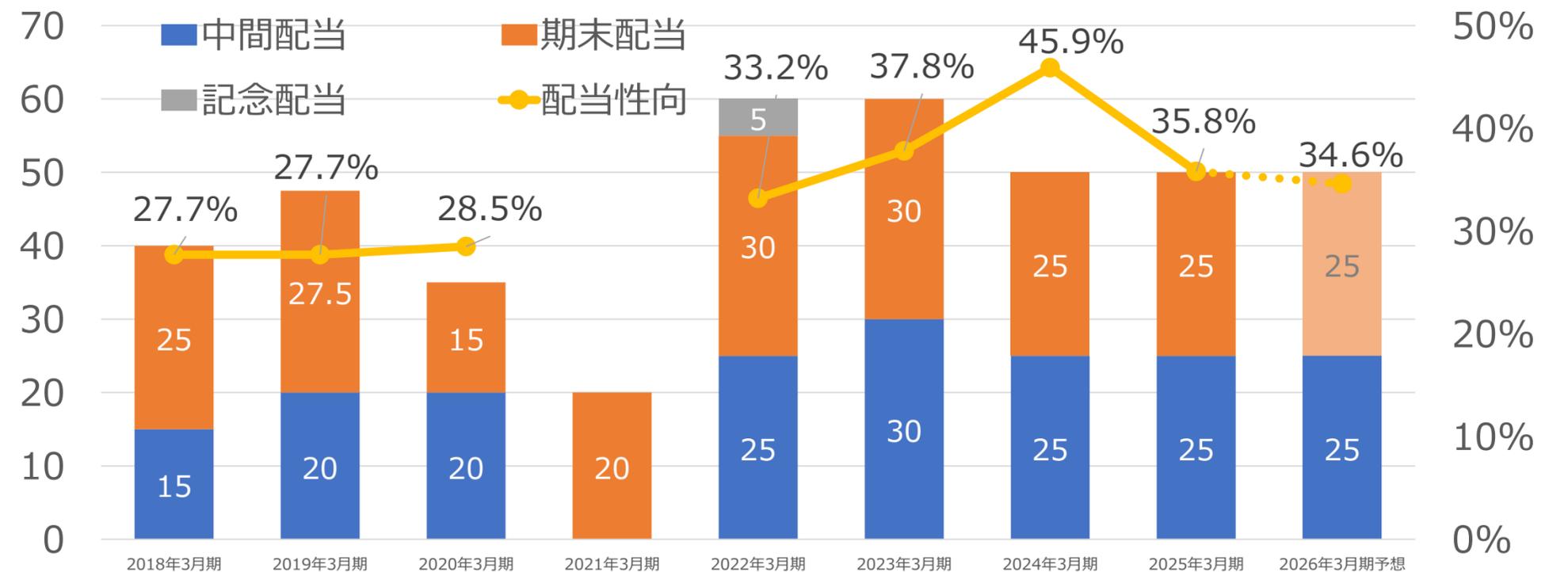
また、1株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めます。

なお、著しい経営環境の変化などの特殊要因により、親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、配当金の見直しを検討するものとします。

剰余金の配当（中間）

- 中間配当は、2025年5月14日に公表した中間配当予想の通り、1株あたり25円（普通配当）
- 中間配当金の支払開始日は2025年12月5日

基準日	2025年9月30日
1株あたり配当金	25円00銭
配当金総額	1億2千1百万円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2025年12月5日
配当原資	利益剰余金



(注) 1 2021年3月期は当期純損失であったため配当性向は該当ありません。
 2 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2018年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、配当金額を算定しております。

8. 今後の見通し

経済環境の見通し

・世界経済は、米国の関税引き上げにより、緩やかな景気減速が想定される。また、国内においても企業収益の下振れが懸念されるものの、人材不足対策やDX化等を背景とした設備投資等の内需の支え等により、景気は回復基調を維持するものと思われる。

ターゲット市場別の見通し

- ・衛生用品機器・医療用部品市場 : N T ダイカッター（機械部品事業）が、下期にまとまった需要があり、上期業績を上回りながら推移すると見込む。医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品（電機部品事業）が堅調に推移すると見込む。
- ・半導体・電子部品市場 : ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板（機械部品事業）が堅調に推移すると見込む。
- ・自動車部品市場 : 電装部品溶接用の抵抗溶接用電極（電機部品事業）は堅調に推移すると見込む。EVリレー用接点は上期と同様に伸び悩む中で推移すると見込む。
- ・産業用機器・部品市場 : 二軸混練押出機用の金属部品（機械部品事業）の中国向けのまとまった需要が一服したこと等により、大幅な減少を見込む。
- ・中国の輸出規制については、主要原材料であるタングステンが、中国からの輸出に時間を要する状況。一部で代替品の使用によるコストが増加しているが、一定の在庫を確保しており、継続的な生産に影響を及ぼすことはない。安定した調達に向けて、グループ会社との協働による調達や、新たな仕入先の開拓、さらには、リサイクル技術の活用の強化など、継続的な生産に向けた取り組みに注力。

業績、配当金予想

- ・当第2四半期の業績は、当初想定より若干下振れで進捗しており、また、当連結会計年度下期の業績見通しは、産業用機器・部品市場の低迷を他のターゲット市場でカバーしながら、上期業績と同程度のペースで推移すると見込む。
- ・2025年5月14日に公表した通期の業績予想から若干乖離する傾向となるが、現時点では、2026年3月期通期の連結及び個別業績予想値を据え置く。なお、配当金予想に変更はなし。

(%表示は、対前期増減率)

連結業績予想	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益		年間配当金			配当性向(連結)	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%				第2四半期末	期末	合計		
通期	12,800	3.3	700	1.6	960	0.8	700	3.4	144.33	2026年3月期	確定 25円	予想 25円	50円	34.6%



参考資料

1. 業績の推移（連結）

経営成績（連結）

（単位：百万円）

区分	2022年3月期 第2四半期（中間期）	2023年3月期 第2四半期（中間期）	2024年3月期 第2四半期（中間期）	2025年3月期 第2四半期（中間期）	2026年3月期 第2四半期（中間期）
売上高	5,865	6,611	5,669	6,309	6,050
営業利益	483	602	289	397	297
経常利益	619	756	457	523	440
親会社株主に帰属する中間純利益	444	518	361	354	304
純資産	10,357	11,226	11,748	12,308	12,839
総資産	15,629	16,953	17,239	17,558	18,000

経営指標（連結）

区分	2022年3月期 第2四半期（中間期）	2023年3月期 第2四半期（中間期）	2024年3月期 第2四半期（中間期）	2025年3月期 第2四半期（中間期）	2026年3月期 第2四半期（中間期）
売上高営業利益率 (%)	8.2	9.1	5.1	6.3	4.9
自己資本中間純利益率（ROE） (%)	4.4	4.8	3.2	3.0	2.4
自己資本比率 (%)	66.2	66.2	68.1	70.0	71.3
1株当たり純資産（BPS） (円)	2,144.92	2,318.81	2,423.26	2,535.87	2,641.38
1株当たり中間純利益（EPS） (円)	92.18	107.26	74.71	73.21	62.69
総資産経常利益率（ROA） (%)	4.0	4.6	2.7	3.0	2.5

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。